

研究課題名	炎症性腸疾患患者における背景因子と治療による肝機能・腎機能の変動
研究の意義・目的	炎症性腸疾患は腸管の炎症の病気ですが、合併症として肝機能障害や腎機能障害が生じる事が知られています。そのような肝機能障害や腎機能障害がある場合は、薬剤の種類によっては体の中の薬の濃度が増加したり、薬剤の過剰な投与がそれらの障害を増悪させる可能性があります。また、近年ではメタボリックシンドロームを併存する患者様も増加しており、メタボリックシンドロームに伴う肝機能障害（脂肪肝炎など）や腎機能障害（糖尿病性腎症など）を有する患者様の増加も予測されます。しかし、どの程度の患者様が肝機能障害や腎機能障害を有しているかのデータの報告は少ないのが実情です。そこで本研究では当院消化器内科通院中の炎症性腸疾患患者様の肝機能・腎機能の年代別相違や、年次推移などを解析することで、今後の治療選択にとって有用な情報を集積することを目的とします。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日 ~ 2027 年 3 月 31 日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2007 年 5 月~2024 年 3 月 31 日の期間に大阪公立大学医学部附属病院で肝機能・腎機能を評価するための血液検査が行われた、炎症性腸疾患の患者様が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記①~④の項目を本研究に使用させてください。 ① 患者基本情報：年齢、性別、身長、体重、BMI、喫煙歴、血圧、診断名（Crohn 病、潰瘍性大腸炎など）、疾患既往歴、手術歴、使用中薬剤（糖尿病治療薬、降圧薬、脂質異常症治療薬など）、疾患活動性評価指標（Harvey-Bradshaw index、CAI など）、炎症性腸疾患の治療や寛解の有無、腸管狭窄症の有無。 ② 血液検査結果：白血球数、白血球分類、赤血球数、血小板数、好中球数比率、MCV、MCH、MCHC、赤血球沈降速度、血清 CRP、総蛋白、アルブミン、クレアチニン、eGFR、BUN、UA、T-Bil、D-Bil、Na、K、Cl、AST、ALT、AMY、ALP、 γ GT、ChE、LD、血糖値、HbA1c、TG、TCHO、LDL-C、HDL-C、Non HDL-C、換算 LDL-C、LDL/HDL ratio、FIB4-index、LRG、プロカルシトニン、BNP、NT-proBNP、トロポニン T。 ③ 尿検査：尿蛋白、尿アルブミン、尿中クレアチニン、尿中 NAG、尿中 β 2mG、尿潜血。 ④ 便検査：便中カルプロテクチン、便潜血。
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学医学部附属病院の消化器内科のみで行います。 【研究責任者】細見 周平 大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学
本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。

連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 担当者氏名：細見 周平 電話番号：(06) 6645-3811 メールアドレス： v21725n@omu.ac.jp
------------	--